

# 富山大学 学報

## 第259号

### 目 次

関係法令	1	第22回16大学人文系学部長会議の開催	8
学内規則	2	昭和60年度日本教育大学協会北陸地区会 評議員会の開催	9
富山大学外国人受託研修員規則の一部改正	2	昭和60年度全国国立大学教養(学)部長会議 及び事務協議会の開催	9
諸会議	2	会計検査院の会計実地検査	10
学 事	4	卒業予定者の就職事務について	10
昭和60年度科学研究費補助金交付内定者	4	寄稿<南極越冬観測雑記>	10
昭和60年度科学研究費補助金申請・採択状況	5	職員消息	13
人事異動	6	主要行事	13
学内諸報	7	資 料	17
永年勤続者の表彰	7	昭和59年度卒業生就職状況	17
海外渡航者	8		
中国遼寧大学日本研究所友好訪問団一行の来学	8		

## 関係法令

	(官報掲 載月日)		(官報掲 載月日)
<b>法 律</b>		等の一部を改正する政令(150)	5・24
○国立学校設置法の一部を改正する法律 (35)	5・17	○恩給法等の一部を改正する法律附則第14 条の2第1項の年金たる給付等を定める 政令の一部を改正する政令(153)	5・31
○特許法等の一部を改正する法律(41)	5・28		
○恩給法等の一部を改正する法律(42)	5・31	<b>省 令</b>	
<b>政 令</b>		○文部省定員規則の一部を改正する省令 (文部18)	5・17
○義務教育諸学校施設費国庫負担法施行令			

(官報掲  
載月日)

(官報掲  
載月日)

- |   |   |      |      |
|---|---|------|------|
| ○国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令(文部19)  | 改正する省令(文部23)                                    | 5・17 | 5・17 |
| ○義務教育費国庫負担法第2条但書の規定に基き教職員給与費等の国庫負担額の最高限度を定める政令施行規則及び公立養護学校整備特別措置法施行規則の一部を | 告示<br>○無線従事者国家試験の一部を免除する学校等を認定した件を取り消した件(郵政395) |      | 5・28 |

学 内 規 則

富山大学外国人受託研修員規則の一部改正

富山大学外国人受託研修員規則の一部を改正する規則を次のとおり制定する。

昭和60年5月17日

富山大学長 柳 田 友 道

富山大学外国人受託研修員規則の一部を改正する規則

富山大学外国人受託研修員規則(昭和59年2月17日制定)の一部を次のように改正する。

第7条中「外国人受託研修員の研修料について(文部省大学学術局長通知)」を「外国人受託研修員の受入れ等について(文部省学術国際局長通知)」に改める。

▶富山大学外国人受託研修員規則の改正理由  
外国人受託研修員の研修料について(大学学術局長通知, 昭和49年3月20日文大技第181号)の廃止に伴い, 所要事項を改める。

附 則

この規則は, 昭和60年5月17日から施行し, 昭和60

諸 会 議

昭和60年度第1回附属図書館商議会(5月9日)

(報告事項)

- (1)第36回北信越地区国立大学図書館協議会について
- (2)図書館業務の電算化開始について

(審議事項)

- (1)富山大学附属図書館規則の一部改正(案)について
- (2)昭和60年度図書館運営費(案)について
- (3)昭和61年度概算要求(案)について

昭和60年度第1回国際交流委員会(5月10日)

(報告事項)

- (1)昭和59年度本学と遼寧大学との教官の学術交流及び外国人留学生の現況について

(審議事項)

- (1)遼寧大学との学術交流に基づく教官の招へい及び派遣について

昭和60年度第1回入学試験管理委員会(5月10日)

**(報告事項)**

(1)昭和60年度入学状況について

**(審議事項)**

(1)昭和61年度富山大学入学者選抜試験の実施に伴う基本方針について

**昭和60年度第2回授業料等減免選考委員会 (5月13日)****(審議事項)**

(1)昭和60年度前期分授業料免除について

**昭和60年度第2回補導協議会 (5月13日)****(報告事項)**

(1)学生の動向について

**(審議事項)**

(1)第30回大学祭について

**昭和60年度第1回相互乗り入れ等検討小委員会 (5月14日)****(審議事項)**

(1)教養部と学部の相互乗り入れ問題について

**昭和60年度第3回評議会 (5月17日)****(報告事項)**(1)富山大学における臨時増募について  
(2)学生の動向について**(審議事項)**(1)昭和61年度富山大学入学者選抜試験の実施に伴う基本方針について  
(2)学長選考基準について**昭和60年度第2回大学案内編集委員会 (5月18日)****(審議事項)**

(1)昭和61年度富山大学案内の編集について

**昭和60年度第3回入学者選抜方法研究委員会専門委員会 (5月18日)****(議題)**

(1)入学者選抜方法の改善に伴う昭和58年度以降の調

査研究事項について

**昭和60年度第2回教務委員会 (5月20日)****(審議事項)**

(1)情報処理教育について

**昭和60年度第2回学園ニュース編集委員会 (5月20日)****(審議事項)**

(1)第48号学園ニュースの編集について

**昭和60年度第1回トリチウム科学センター運営委員会 (5月21日)****(審議事項)**(1)昭和61年度歳出概算要求について  
(2)昭和60年度学内共同利用について  
(3)専門委員会委員の一部交替について**昭和60年度第1回学寮補導委員会 (5月23日)****(報告事項)**

(1)受験生宿泊等について

**(審議事項)**

(1)水道料問題について

**昭和60年度第1回将来計画委員会 (5月24日)****(議題)**

(1)富山大学の将来計画について

**昭和60年度第2回部局長懇談会 (5月24日)****(懇談事項)**

(1)昭和61年度概算要求の基本方針について

**昭和60年度第2回トリチウム科学センター運営委員会専門委員会 (5月30日) (持ち回り)****(報告事項)**

(1)専門委員の一部交替について

**(審議事項)**

(1)昭和60年度学内共同利用申込みの一部追加について

昭和60年度国家公務員安全週間

昭和60年7月1日～7日

—— ひとりひとりが

いつでも安全管理の担当者 ——

## 学 事

## 昭和60年度科学研究費補助金交付内定者

研究種目	研究代表者			研究課題	配分予定額(千円)		
	所属	官職	氏名		昭和60年度	昭和61年度	昭和62年度
エネルギー特別研究(核融合)(2)	トリチウム科学センター	教授	渡辺 国昭	Zr系Getter材によるトリチウムの貯蔵-供給とトリチウム水からのトリチウムの回収	5,000		
特定研究(2)	教養部	助教授	森 克徳	パラジウム水素化合物の超伝導と同位元素効果	3,200		
総合研究(A)	理学部	"	菅井 道三	下等真核植物の光形態形成-細胞および細胞下レベルでのアプローチ	4,800	3,000	
一般研究(A)	"	教授	広岡 公夫	先史時代の地磁気永年変化と考古地磁気年代推定への応用	2,800	1,800	
	"	"	小黑 千足	脊椎動物における血液塩、特にCa, Na, K 濃度の内分泌系による制御とその進化	9,500	2,100	1,100
一般研究(B)	人文学部	"	秋山 進午	中国古代土器・陶磁器の様式史的研究	800		
	教育学部	"	林 良重	盲学校理科Iの指導用モジュール教材と学習材の開発とその実践化	1,800	1,500	1,200
	理学部	"	佐藤 清雄	稀土類金属とニッケルの金属間化合物の磁性とフェルミ面の関係	5,000	800	
	"	助手	竹内 章	環境線量測定および古地磁気測定による活断層の年代測定に関する研究	4,500	1,400	
一般研究(C)	人文学部	助教授	藤本 幸夫	日本現存朝鮮古刊本の調査とその語学的・書誌学的研究	800	500	
	経済学部	"	高橋 一	逐次分析における二標本問題	1,000	600	
	理学部	教授	高木光司郎	赤外二光子遷移による負温度の発生	1,800		
	"	"	川井 清保	金属塩中のトリチウム水およびトリチウム水酸化物イオンの赤外線吸収スペクトル	1,400		
	"	助教授	渡辺 義之	Blaschke manifold at a point と調和リーマン多様体	1,500		
	"	"	安田 祐介	ガスの吸着・脱離における協力現象の周波数応答法による測定	1,800		
	"	"	尾島 十郎	窒素原子を含む新しい大環状 $\pi$ 電子系の合成と物性に関する研究	1,900		
	"	"	道端 齊	高濃度にバナジウムを含むホヤの血球細胞の分離とバナジウムの濃縮機構	900	600	
	工学部	教授	小林 信之	MLEC法によるGaAs 完全結晶を育成するための理論的研究	1,400	500	
	"	助教授	竹越 栄俊	非定常熱線法による低温熱伝導率測定装置の作成とその評価	400		
"	講師	岩城 敏博	無転位半導体結晶の育成に関する応力解析	1,300	400		

研究種目	研究代表者			研究課題	配分予定額(千円)		
	所属	官職	氏名		昭和60年度	昭和61年度	昭和62年度
一般研究(C)	教養部	教授	小島 覚	北海道の天然生針葉樹林の植生分化に及ぼす土壌の影響に関する研究	600		
	"	助教授	中越 矩方	代数体, 特にクンマー拡大体の類数, 単数の代数的・解析的研究	900		
奨励研究(A)	人文学部	"	濱田 英子	古バビロニア時代における生活文化史研究	800		
	"	講師	釘貴 亨	古代日本語101-101対立崩壊における音節結合法則の通時的役割に関する研究	800		
	"	"	村井 文夫	イリュミニズムからロマンティズムへ	600		
	教育学部	助教授	山西 潤一	LOGOを使った創造的学習支援システムの開発	900		
	"	講師	神川 康子	開眼後の脳波におけるαリズム再現時間による疲労判定	800		
	理学部	助教授	久保 文夫	正值作用素の平均システム制御理論的研究	800		
	"	"	佐竹 洋	岩石破壊によって生ずる水素と水の水素同位体分配比の実測	800		
	"	助手	阿部 幸隆	弱1-完備多様体の構造の研究	800		
	"	"	飯田 敏	セレン酸カリ型誘電体の整合-不整合相転移におけるドメイン壁のピン止め-X線回折トポグラフィによる直接観察	1,000		
	"	"	中川 邦明	分子振動が内部回転におよぼす影響に関する分光学的研究	700		
	工学部	"	石原 外美	疲労微小表面き裂の進展特性とき裂先端の変形挙動	900		
	"	"	平澤 良男	レーザーフラッシュ法による複合材料の熱定数に関する研究	500		
	"	文部技官	丹保 豊和	電子分光法によるIII-VI層状半導体の金属の界面ポテンシャルに関する研究	900		
	"	"	草開 清志	鉄-ニッケル合金の双結晶を用いた粒界選択酸化に関する研究	900		
	教養部	講師	江上 繁樹	行列の解析数論への保型関数の応用	800		
トリチウム科学センター	助手	市村 憲司	マルチチャンネルプレートによる吸着トリチウムのリアルタイムイメージング	800			

昭和60年度科学研究費補助金申請・採択状況

(単位:千円)

研究種目	部局名	人文学部		教育学部		経済学部		理学部		工学部		教養部		トリチウム科学センター		計	採択率 (%)	
		件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額			
自然災害 特別研究	申請											1	4,200			1	4,200	0
	採択											0	0			0	0	
エネルギー 特別研究 (エネルギー)	申請									2	6,000					2	6,000	0
	採択									0	0					0	0	
エネルギー 特別研究 (核融合)	申請													1	5,026	1	5,026	100
	採択													1	5,000	1	5,000	
特定研究	申請											1	3,283			1	3,283	100
	採択											1	3,200			1	3,200	

部局名 研究種目	人文学部		教育学部		経済学部		理学部		工学部		教養部		トリチウム科学センター		計		採択率 (%)	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額		
総合研究(A)	申請						2	18,876			1	1,670			3	20,546	33.3	
	採択						1	4,800			0	0			1	4,800		
一般研究(A)	申請						(1) 3	(2,800) 28,080	1	32,272					(1) 4	(2,800) 60,352	50	
	採択						(1) 2	(2,800) 12,300	0	0					(1) 2	(2,800) 12,300		
一般研究(B)	申請	(1) 3	(800) 11,829	3	11,318		4	24,307	4	23,620					(1) 14	(800) 71,074	28.6	
	採択	(1) 1	(800) 800	1	1,800		2	9,500	0	0					(1) 4	(800) 12,100		
一般研究(C)	申請	4	5,212	13	20,791	1	1,540	25	61,277	22	40,014	12	14,289			77	143,123	16.9
	採択	1	800	0	0	1	1,000	6	9,300	3	3,100	2	1,500			13	15,700	
奨励研究(A)	申請	6	6,402	6	5,296	2	1,973	12	13,479	10	11,080	3	3,440	1	1,200	40	42,870	40
	採択	3	2,200	2	1,700	0	0	5	4,100	4	3,200	1	800	1	800	16	12,800	
試験研究	申請						1	3,100					1	7,715	2	10,815	0	
	採択						0	0					0	0	0	0		
計	申請	(1) 13	(800) 23,443	22	37,405	3	3,513	(1) 47	(2,800) 149,119	39	112,986	18	26,882	3	13,941	(2) 145	(3,600) 367,289	26.2
	採択	(1) 5	(800) 3,800	3	3,500	1	1,000	(1) 16	(2,800) 40,000	7	6,300	4	5,500	2	5,800	(2) 38	(3,600) 65,900	
採 択 率 (%)	38.5		13.6		33.3		34.0		18.0		22.2		66.7		26.2			

(注) ( ) 内数字は継続を内数で示す。

=====

### 人 事 異 動

=====

異動区分	発令年月日	氏 名	異動前の所属官職	異 動 内 容	任命権者
採 用	60. 5. 17	浅 畑 美香子		事務補佐員(教養部)	富山大学長
	60. 5. 20	山 口 典 子		" ( " )	"
転 任	60. 6. 1	村 崎 勝 子	文部事務官(富山工業高等専門学校会計課)	文部事務官(経理部経理課)	"
併 任	60. 5. 2	楠 瀬 勝	教授(人文学部)	人文学部長・評議員(60.5.2~62.5.1)	文 部 大 臣
	"	梶 井 陟	" ( " )	評議員(60.5.2~62.5.1)	"
	"	三 宝 政 美	" ( " )	" ( " )	"
	"	後 藤 克 己	" (理学部)	" ( " )	"
	"	小 黒 千 足	" ( " )	" ( " )	"
	60. 5. 9	本 田 弘	教授(人文学部)	学生部長・評議員(60.5.9~62.5.8)	"
	60. 6. 1	泉 敏 郎	教授(教育学部)	評議員(60.6.1~62.5.31)	"
	"	渡 辺 一 郎	" ( " )	" ( " )	"
	"	三 上 房 男	" (工学部)	" ( " )	"
"	作 道 栄 一	" ( " )	" ( " )	"	
辞 職	60. 5. 31	吉 野 敏 邦	技能補佐員(施設課機械操作手)	辞職を承認する	富山大学長

学 内 諸 報

永年勤続者の表彰

本学の昭和60年度永年勤続者表彰式が、開学記念日の5月31日(金)午前11時から事務局大会議室において行われました。

表彰式には、各部局長等多数が列席され、被表彰者の一人一人に、柳田友道学長から表彰状並びに記念品が贈られ、引き続き学長の祝辞があり、これに対して被表彰者を代表して工学部若林嘉一郎教授から「今後もより一層仕事に励み、大学の発展に寄与したい」旨の謝辞がありました。

閉式後、同会議室において、永年勤続者を囲み懇談会が催され、和やかな雰囲気うちに終了いたしました。

(表彰された方々は、次のとおりです。)

○35年勤続(13名)

人文学部	高崎公文	理学部	田中専一郎
教育学部	白川郁子	"	横山 泰
"	島倉重二	"	川瀬義之
"	森田美喜子	工学部	若林嘉一郎
理学部	中川正之	"	斉藤仁代

工学部	鳴尾 一郎	附属図書館	斉藤 隆
"	山口信吉		
○20年勤続(30名)			
学 長	柳田友道	理学部	近堂和郎
庶務部	西尾 武	"	高安 紀
"	前田邦樹	"	林 有一
経理部	松下義春	工学部	八木 寛
"	金田 稔	"	時澤 貢
"	福田和子	"	長谷川 淳
学生部	土肥隆三	"	竹越栄俊
保健管理センター	山本郁子	"	大住 剛
人文学部	湊 馨	"	林 征紀
理学部	中川 巖	"	山本健市
教育学部	埴野謙二	"	森田憲治
"	神保和子	"	六土幸男
"	尾島隆保	教養部	瀬川慶之
"	高塚清文	"	尾山吉昭
経済学部	今井晴男		
理学部	佐藤清雄		



## 海 外 渡 航 者

渡航の種類	所属	職	氏名	渡航先国	目的	期間
外国出張	理学部	助教授	對馬 勝年	ネパール	アジア高山地域における比較水河研究のため	60. 5. 29 } 60. 7. 3
	工学部	教授	杉本 益規	カナダ アメリカ合衆国	第4回国際造粒シンポジウム出席と論文発表及び粉粒体に関する研究資料の収集と調査のため	60. 5. 31 } 60. 6. 10

## 中国遼寧大学日本研究所友好訪問団一行の来学

去る5月29日(水)中華人民共和国遼寧大学日本研究所所長任鴻章氏を団長とする友好訪問団5名が来学されました。

一行は、本学の諸施設・設備などを視察され、続いて、学長室において、学長等と懇談して友好を深めた後、学長、学生部長、三宝人文学部教授宅に分かれて

宿泊されました。

翌30日(木)は、井波町の瑞泉寺や平村の岩瀬家などを視察され、本学職員会館に宿泊されました。

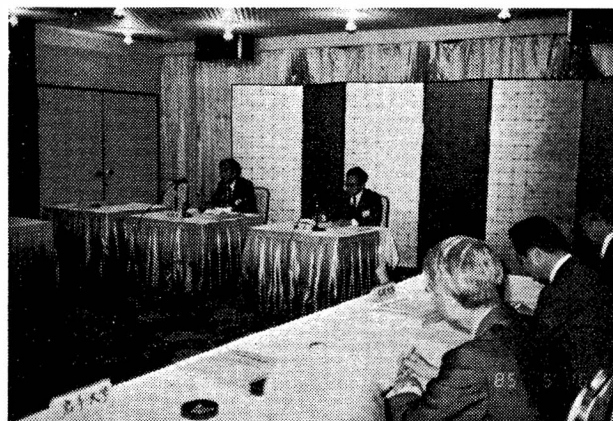
一行は、31日(金)本学の大学祭の状況を視察され、友好親善の実をあげて、離富されました。

## 第22回16大学人文系学部長会議の開催

第22回16大学人文系学部長会議が去る5月16日(木)、17日(金)の両日、富山大学人文学部の当番で開催されました。

会議は下記の日程で行われ、本学柳田学長及び文部省からは高等教育局大学課石井係長も列席されました。主な協議題は、1) 人文系学部の拡充、発展について 2) 18才人口の急増に伴う学生の臨時増募について 3) 高等学校新教育課程卒業者の受入れに伴う対応策について 等であり、各大学の対策紹介及び活発な意見交換が行われ、文部省係官からこれらに関する最近の諸情勢についての説明を受け、盛会のうちに終了しました。

なお、オブザーバーとして金沢大学からの出席もありました。



## 会 議 日 程

5月16日(木)

於 富山ステーションホテル

9:00~ 受付

9:30~ 会議

14:30~ 移動



五箇山荘へ  
18：30～ 懇親会（宿泊）  
5月17日（金）  
於 五箇山荘

9：00～ 会 議  
10：00～ 移 動  
14：00 高岡駅にて解散

### 昭和60年度日本教育大学協会北陸地区会評議員会の開催

昭和60年度日本教育大学協会北陸地区会評議員会は5月30日(木)、31日(金)の両日、富山大学の当番で6大学が参加して開催されました。

会議は2日間にわたり下記の日程で行われ、協議題として、1) 会務報告について 2) 就職指導について(特に教職関係以外) 3) 教育学部の将来計画及び教育課程の改革等について 4) 附属学校教官の部門別研究活動の参加のしかたについて 5) 附属学校定年教官の不補充について 6) 日本教育大学協会規約改正(案)について 7) 規程改正案と関連するが、従来の一・二・三部会という部会制が消滅するに伴い、改正案の目的第4条一～四の運用について それぞれ意見交換が行われ、盛会のうちに終了しました。

#### 会 議 日 程

5月30日(木) 第一会場(富山ステーションホテル)  
9：30～10：00 受 付  
10：00～12：00 会 議  
12：00～13：00 記念撮影、昼食  
13：00～15：30 会 議  
15：30～17：00 見学及び第二会場へ移動  
18：30～ 懇親会・宿泊

5月31日(金) 第二会場(氷見市灘浦海岸「湖城」)  
9：00～11：00 会 議  
11：00～13：00 見学及び昼食  
13：30 国鉄高岡駅前解散

### 昭和60年度全国国立大学教養(学)部長会議及び事務協議会の開催

昭和60年度全国国立大学教養(学)部長懇談会(分科会)・部長会議及び事務協議会が去る5月21日(火)、22日(水)の2日間にわたり、本学の当番により富山第一ホテルを会場として開催されました。

部長懇談会は3分科会に分かれ、第一分科会は「教養部の将来像について」、第二分科会は「放送大学と一般教育について」、第三分科会は「学生の留年問題について」をテーマとしてそれぞれ討論されました。

分科会と並行して行われた事務協議会では、「臨時行政調査会の答申と各大学の対応策について(継続)」の議題について、各大学ともその対応に迫られている問題であることから活発な意見交換が行われました。

また、会議第二日目の教養(学)部長会議においては、文部省高等教育局大学課小口課長補佐、同課多田事務官が出席され、柳田学長の挨拶に続いて、小口課長補佐から最近の諸情勢について報告があり、これに対して、昭和61年度を始期とする学生の臨時増募計画と一般教育の関係について、有意義かつ活発な質疑応答が行われました。

引き続き、会議第一日目の3つの分科会の座長からその概要について報告があり、種々意見交換、討議されたあと、文部省その他関係機関に対して、国立大学における一般教育の整備充実を図るため、13項目にわたる要望書が採択され、盛会のうちに終了しました。



#### 会 議 日 程

5月21日(火) 於 富山第一ホテル  
14：00～17：00 第一分科会 議題「教養部の将来像

	について	5月22日(水)	於 富山第一ホテル
14:00~17:00	第二分科会 議題「放送大学と一般教育について」	9:00~12:00	教養(学)部長会議
〃	第三分科会 〃 「学生の留年問題について」		議題 1.部長懇談会(3分科会)の報告と協議
〃	事務協議会 〃 「臨時行政調査会の答申と各大学の対応策について(継続)」		2.要望書の取扱いについて
18:00~20:00	懇親会		3.次期当番大学について

### 会計検査院の会計実地検査

昭和59年度の会計検査院による会計実地検査が、去る5月27日(月)から29日(水)までの3日間本学で行われました。

主任官	副調査官	唐 木 慧
	調査官	仲 村 昇
	調査官	佐 藤 達 矢
	事務官	長 井 俊 一

### 卒業予定者の就職事務について

このことに関して、学生部長から、教職員に対し次のとおり協力方の依頼がありました。

#### 就職協定について

例年大学卒業予定者の就職事務につきましては、大学等11団体からなる就職問題懇談会において決定された「昭和54年度以降の大学及び高等専門学校卒業予定者のための就職事務に関する申し合わせ」、いわゆる「就職協定」を踏まえて実施しているところですが、引き続き本年度も文部省高等教育局長から協定遵守についての通知がありましたので、教職員におかれましてもその趣旨を御理解のうえ、御協力下さいますようお願い

いたします。

#### 記

- 学生に対する求人内容の提示……………卒業前年の9月10日以降
- 求人(求職)のための企業と学生の接触開始……………卒業前年の10月1日
- 選 考 開 始……………卒業前年の11月1日

### 寄 稿

#### 〈南極越冬観測雑記〉

第25次南極地域観測隊に雪氷系研究部門の越冬隊員として参加し、1年4ヵ月の仕事を終えてこの度帰国した。

「万才」「頑張ってこいよ」「元気でね」などと祝いと別れの淋しさをおさえた多くの見送りの人々の声を耳

理学部助手 川 田 邦 夫  
に残し、船は静かに晴海埠頭を離れた。次第に遠ざかってゆく埠頭と東京タワーを見ながら胸を熱くしていた。1983年11月14日11時、第25次南極地域観測隊を乗せた新南極観測船“しらせ”の処女航海の出港である。出港後しばらくは近くを航行する船、近くの基地から

飛来した双発機、先の観測船“ふじ”などから温かい激励が続いた。

大きな揺れもなく船は順調に南下を続け、スコールの雨雲を避けながら赤道を通過し、インド洋に出てオーストラリアのフリマントルへ5日間程寄港した。ここを出て数日すると暴風圏に入るが、心配した艦の動揺も少いまま通過し、いよいよ南極圏へ入った。鯨やシャチの群が時々姿を見せ、気温も下がってきてやがて冰山が見え出した。氷海に突き進んでからの砕氷艦“しらせ”は厚さ1.5m程度の海氷に対しても大して速度を落すことなく進み、流石世界に誇る砕氷艦と皆を喜ばせた。しかしやがて現われた厚さ数mもある乱氷帯に行先を阻まれて遂にチャージング航行となった。これは2~300mバックした後全速力で海氷に体当たりし、氷に乗り上げる格好で少しづつ砕氷していくもので進行能率は非常に悪くなった。ここで余り日数をとられては後の行動に影響するので、ヘリコプターによる物資の輸送も砕氷航行と交互に行われることになった。



(みずほ基地ボーリング場  
—ドリルを制御、監視している—)

12月26日、大陸の玄関口で物資集結地のS16地点へ下りた。輸送された大量の荷を分類して次々と橇に積み込み、ラッシングをした後、橇編成をする。この頃の南極は一日中太陽が沈まず明るい。内陸のみずほ基地へ向う旅行隊は27日遅く、海氷の見えるS16地点を後にした。不慣れた雪上車旅行に順応しつつ年明けの1月2日、標高2,240mのみずほ基地に到着した。みずほ基地を守っていた3人の24次越冬隊員は夕食に七面鳥の丸焼き、ロブスター等、驚くばかりのごちそうをテーブルいっぱいにならべて歓迎してくれた。この時の彼らの気持ちは一年後に我々が味わうこととなるのであった。24次旅行隊の出入りや航空機による人員移動などがあり、あわただしい引き継ぎ作業で落ちつかなかったが、24次隊が去ってしまい、6名だけが越冬として残されると急に淋しさを感じた。しかしそれ

も束の間で生活維持のための基地内作業に追われて郷愁を感じる余裕もなくなった。

みずほ基地の生活区域は現在4~5mも雪の下に埋れてしまっている。したがって外には、今は使っていない気象観測用の30mタワー、ポール、旗竿、発電機の煙突の換気パイプ、多数の燃料ドラムなどが見えるだけである。玄関は竪穴式になっていて、そこから斜めに掘られた雪の階段を10段ばかり下りると基地内の通路に出る。この雪のトンネルには大きく成長した霜がたくさんついていて、雪の天井を通して外から入ってくる青紫色の光の中で大変美しく見える。基地内にはベッドのある観測棟、居住棟、医療棟などが玄関の近くにあり、少し離れた所にある発電機室や各種の物品庫などと巾1m位の通路でつながっている。

みずほ基地には調理人はいないので自分達で炊事をせねばならない。そこで1人づつ1日交替で当直となり、三食の食事の準備と片づけ、水造りと運搬、発電機関係の機械ワッチ(1日4回)などの仕事をやった。かなりの仕事量であるから当直者は、その日のあらゆる全体作業からはずされる。小生など、独り暮らしの頃の半自炊生活やキャンプでの経験はあるが家庭で台所に立ったことなどなかった。これまで家や外で食べたうまい料理を思い出しては作り方を本で調べてやっていくうち、これがみずほ基地での単調な生活に気分転換を与えるものだ気づいた。うまいものを食べれるということ自体が長い期間の特殊な閉鎖社会での生活に楽しみを与えた事実は見逃せない。

みずほ基地での雪氷部門の大きな課題は、500mを越える深さの氷床掘削を行って氷期末といわれる1万年前程度までの氷試料を採取することであった。これは現在5ヶ年計画で進行中の東クイーンモードランド雪氷研究計画の三大課題の一つであり、国内外の解析者に配分して氷床の堆積環境変化を過去に溯って調べるというものである。この掘削は24次隊から25次隊へ引き継がれて行われることになっていて、24次隊は411mを掘って中断した。氷の圧力によって掘削孔が収縮し、ドリルが孔壁にひっかかるようになったためだ。引き継いだ我々25次隊は孔の拡幅と新たな掘削という両面の対策に苦慮した。

用いたドリルは電熱式氷床掘削機と呼ばれるもので、円環型ヒーターで氷を融かして掘進し、円柱状の試料を得る。融け水は組み込まれたポンプで試料容器の上部にある水タンクに吸い揚げて一緒に引き上げる仕組みになっている。

まず24次掘削孔の拡幅作業から始めたが、深さ120m付近から次第に元孔の側壁に食い込み始めた。元孔への復帰作業に1ヵ月もかけたがうまくゆかず、遂に140m以深は別途の掘削を続けることとなった。25次隊が用意して行った孔径測定機で何度も深さ毎の孔径を測定し、深さと歪速度の関係を求めた。これにより未知の深さでの収縮速度を予想し、この収縮に対抗できる速さで掘削を進めねばならなかった。このため後半は一日の掘削作業時間も長くし、休日もとらなかった。掘削機やウィンチの種々のトラブルにも、何度も解体、修理を繰り返して対処した。折れた小さなボルトの頭が孔底に落ち込み、掘削が進まなくなったときは二日間にわたり苦しんだ。この時は一まわり口径の小さい別のドリルを併用して異物の回収に成功した。

ちょうど500m深に達したときの試料に幅25ミリ程度の火山灰による汚れ層が見つかった。このようなマークはその層の年代を知手がかりとして大変貴重である。バード基地での掘削データから、みずほ基地での500mの深さは約7,500年前と推定される。8月1日、ウィンチのケーブル長さいっばいの700mを掘って中層掘削の作業を終了した。この深さは1万2千年位前と推定できる。この掘削は日本隊の記録を大幅に伸ばしたことはもちろんだが、ソ連、米国、フランスに続くもので、今後の深層掘削の足がかりとしても価値の高い結果となった。

北半球の夏至にあたる時が南極ではミッドウィンターと呼ばれ、越冬の一つの折り返しとして祝われる。昭和基地では3日間仕事を休んで種々の祭り行事が行われた。しかしみずほ基地の6人は掘削作業に追われて休暇なし。知人から届いた激励の祝電にどれ程喜んだことか。

8月中旬、昭和基地から交替要員4人を含むみずほ基地支援の旅行隊がやってきた。我々は10月初めから始まる内陸雪氷調査旅行の準備のため昭和基地へ下らねばならず、この旅行隊と共に昭和基地へ入り、温かい歓迎を受けた。

狭いみずほ基地ではプライバシーなど全く考慮されぬ生活を過してきたが、昭和基地では狭いながらも個室が与えられ、風呂、食堂などの施設もよく、仕事もいくらか分業化していて、一つの小さな村を感じさせた。

1ヵ月のあわただしい準備を終えて、10月4日、内陸雪氷調査旅行隊は昭和基地を出発し、5日後みずほ基地に到着した。ここで新たな荷を加えて橇を再編成

した。結局ここから先の旅行は雪上車4台、橇16台を使い、8人のメンバーが最初二隊に分れて、互いに別ルートの調査を行うことになった。私の隊はほぼ直線的に南東進した。

出発当初はまだ気象状況も厳しく、サスツルギーなどの削はくによる雪面の凸状模様が広範囲に続き、雪上車の進行を大きく妨げた。この頃はもう一日中太陽



(内陸旅行出発時、昭和基地の海氷上に)  
橇編成を終えた雪上車がならぶ

が輝いていていつでも行動できるが、風の強い時間帯を避け、朝10時頃出発し、21時か22時頃キャンプに入ることが多かった。

この調査旅行では南極氷床の涵養機構や、流動を調査することになっている。2km毎に立てた旗竿の高さを読み、ルート上の重要観測地点では2～3日滞在して指定位置の正確な測定や、種々の雪氷観測を行った。みずほ基地を出てから1ヵ月後、約600km進んだ地点に内陸前進キャンプを設け、気象観測装置や雪尺ラインを設置した。ここが拠点となって今後内陸部の氷床調査が広く展開される。さらに南緯75度、標高3,400mまで南下したところから反転北上、やまと山脈経由の帰路についた。帰りの旅行は気温もどんどん高くなり、とても快適だったが、クレバス帯が多く、より慎重に行動した。こうして全行程約2,500km、3ヵ月にわたる旅行も大きな事故もなく終了した。みずほ基地で26次隊を迎えて、引き継ぎを終え、沿岸部のS16地点へ下った。海が見えるようになり、遠く氷山の間オレンジ色の“しらせ”を認めたとき、ようやく遂に越冬を終えたのだという実感がわいてきたのである。

▶ 筆者は、第25次南極地域観測隊の越冬隊員として、昭和58年11月14日から昭和60年3月25日まで南極地域へ外国出張されましたので、特に寄稿を御依頼したものです。

## 職 員 消 息

### 《新任者》

#### 経 理 部

文部事務官 村崎 勝子  
(経理課出納係)

#### 経営短期大学部

助 教 授 小倉 利丸

助 教 授 下崎千代子

### 《住所変更》

#### 教育学部

文部事務官 中三川敏之

### 《電話新設》

#### 庶務部

企画係長 中村 進

#### 教養部

事務補佐員 中田 幸子

## 主 要 行 事

### 本 部

5 月

8～9日 第40回東海・北陸地区国立学校等庶務部課  
長会議(於 浜松医科大学)

9日 北陸地区国立学校事務電算化協議会  
(於 金沢大学)

9～10日 定期X線(間接)撮影(五福地区の職員)

10日 第1回国際交流委員会  
第1回入学試験管理委員会

11日 第37回北陸地区国立大学体育連盟運営協議  
会(於 福井大学)

13日 第2回授業料等減免選考委員会  
第2回補導協議会

14日 全国大学保健管理協会東海・北陸地方部会  
幹事会(於 名古屋大学)

第1回相互乗り入れ等検討小委員会

15日 国立大学協会第3常置委員会  
(於 学士会分館)

17日 第3回評議会

定期健康診断(五福地区の女子職員)  
(内科検診, 尿, 血圧測定)

中部地区学生補導厚生研究会常任幹事会,  
同研究会第29回総会

(於 共済会館「新大阪」)

18日 第2回大学案内編集委員会

第3回入学者選抜方法研究委員会専門委員  
会

20日 国立大学事務局長会議(於 国立教育会館)  
第2回教務委員会

第2回学園ニュース編集委員会

学務関係係長会議

21日 中華人民共和国遼寧大学副教授王 凌氏来学

## 教育 学 部

- 22日 東海・北陸地区国立大学学生部長会議  
(於 金沢大学)  
定期X線(間接)撮影(高岡地区の職員)
- 23日 第1回学寮補導委員会
- 24日 第1回将来計画委員会  
第2回部局長懇談会  
定期健康診断(本部, 附属図書館, 保健管理センター, トリチウム科学センター及び経営短期大学の男子職員)  
(内科検診, 尿, 血圧測定)  
大学・高等専門学校奨学生事務協議会  
(於 石川県文教会館)
- 24~26日 第9回体育祭
- 27~29日 昭和59年度会計検査院会計実地検査
- 29~31日 中華人民共和国遼寧大学日本研究所友好訪問団一行来学
- 6月  
29~3日 第30回大学祭
- 30~31日 国立学校等経理部課長会議  
(於 東京医科歯科大学)
- 31日 開学記念日  
永年勤続者表彰式

## 人 文 学 部

- 5月8日 学部補導委員会  
教授会  
人事教授会
- 9日 教育実習委員会
- 9~10日 定期X線(間接)撮影
- 15日 コース対抗ソフトボール大会  
学生定期健康診断
- 16~17日 第22回16大学人文系学部長会議  
(於 富山大学)
- 17日 職員定期健康診断
- 21日 学部補導委員会(持ち回り)  
中華人民共和国遼寧大学副教授  
王 凌氏講演会
- 22日 教授会  
人事教授会
- 28日 昭和59年度会計検査院会計実地検査
- 29日 2年次学生オリエンテーション  
学部教務委員会

- 5月1日 学部補導委員会
- 8日 附属学校運営委員会  
予算委員会
- 9~10日 定期X線(間接)撮影
- 13日 日本教育大学協会第一部会(於 筑波大学)
- 15日 学部教務委員会  
教授会  
人事教授会
- 17日 職員定期健康診断
- 20日 教育実践研究指導センター運営委員会
- 20~21日 日本教育大学協会北陸地区第二部会家庭科研究協議会(於 下新川郡朝日町)
- 21~22日 附属小学校研究発表会
- 22日 学生定期健康診断  
自然観察実習センター運営委員会  
学部職業補導委員会
- 23~24日 日本教育大学協会北陸地区第二部会美術部門研究協議会(於 長野県軽井沢町)  
全国国立大学教員養成学部事務長協議会  
(於 長崎県小浜町雲仙)
- 25日 全国国立大学附属学校連盟校(園)長会及び副校(園)長連絡会(於 東京都)
- 26日 全国国立大学附属学校連盟代議員会  
(於 東京都)
- 28日 学術講演会(アメリカ合衆国北ミシガン大学教授 フィルモア・アーニー氏)
- 29日 昭和59年度会計検査院会計実地検査
- 30~31日 日本教育大学協会北陸地区会評議員会  
(於 富山市, 氷見市)

## 経 済 学 部

- 5月2日 服務関係事務調査
- 7日 学部将来構想検討委員会
- 8日 学部教務委員会  
教授会
- 9~10日 定期X線(間接)撮影
- 16日 学部補導委員会
- 17日 学部将来構想検討委員会  
職員定期健康診断

20日	日本海経済研究所運営委員会	17日	職員定期健康診断（五福地区）
22日	学部教務委員会 教授会	22日	教授会 専任教授会
27日	昭和59年度会計検査院会計実地検査		定期X線（間接）撮影（高岡地区）
28日	学部将来構想検討委員会	23～24日	国立大学工学部長会議・総会（於 京都市）
29日	人事教授会 教授会	28日	昭和59年度会計検査院会計実地検査
31日	学部将来構想検討委員会	29日	学生定期健康診断（五福地区）
		30日	学部改革検討委員会

## 理 学 部

5月1日	学部補導委員会 教育実習委員会
7日	学科主任会議 入試改善会議
8日	教授会 理学研究科委員会 人事教授会
9～10日	定期X線（間接）撮影
15日	学生定期健康診断 教育実習オリエンテーション
17日	職員定期健康診断 X線マイクロアナライザー設置委員会
22日	国立15大学理学部事務長会議 （於 鹿児島大学）
23～24日	国立15大学理学部長会議 （於 鹿児島大学）
28日	昭和59年度会計検査院会計実地検査
31日	X線マイクロアナライザー設置委員会

## 工 学 部

5月1日	移転実施計画委員会 学科主任会議 学部補導委員会
8日	教授会 工学研究科委員会 図書委員会 学生定期健康診断（高岡地区）
9日	係長連絡会
9～10日	定期X線（間接）撮影（五福地区）
15日	入学試験検討委員会

## 教 養 部

5月1日	服務関係事務調査
8日	紀要委員会
9～10日	定期X線（間接）撮影
15日	補導委員会 教授会
17日	職員定期健康診断
21～22日	全国国立大学教養（学）部長会議，同事務 協議会（於 富山大学）
29日	昭和59年度会計検査院会計実地検査

## 附 属 図 書 館

5月9日	第1回商議会
9～10日	定期X線（間接）撮影
17日	職員定期健康診断
21日	国立大学附属図書館事務部課長会議 （於 東京医科歯科大学）
24日	職員定期健康診断

## トリチウム科学センター

5月	
9～10日	定期X線（間接）撮影
21日	第1回トリチウム科学センター運営委員会
24日	職員定期健康診断
29日	昭和59年度会計検査院会計実地検査
30日	第2回トリチウム科学センター運営委員会 専門委員会（持ち回り）

## 保健管理センター

- 5月8日 定期健康診断（工学部・高岡地区）  
 9～10日 定期X線（間接）撮影（五福地区）  
 13～14日 定期X線（間接）撮影（五福地区）  
 15日 定期健康診断（人文学部・理学部）  
 臨時健康診断（駅伝大会出場者）  
 16日 定期X線（間接）撮影（五福地区）  
 17日 職員定期健康診断  
 20～21日 定期X線（間接）撮影（五福地区）  
 22日 定期X線（間接）撮影（工学部・高岡地区）  
 定期健康診断（教育学部）  
 臨時健康診断（駅伝大会出場者）  
 24日 職員定期健康診断  
 27～28日 定期X線（間接）撮影（五福地区）  
 29日 定期健康診断（工学部・五福地区）  
 臨時健康診断（駅伝大会出場者）

## 経営短期大学部

- 5月2日 服務関係事務調査  
 9日 財務委員会  
 9～10日 定期X線（間接）撮影  
 16日 授業料等減免選考委員会  
 教授会  
 17日 職員定期健康診断  
 24日 職員定期健康診断  
 25～26日 厚生補導特別企画学生研修会  
 （於 福井市市営国民宿舎「鷹巣荘」）  
 30日 教授会

◎ 退庁、退室の際には、戸締りの徹底・電気、ガスの消し忘れ、タバコの吸殻の後始末に十分注意し、盗難の防止・火災の予防に心がけましょう!!

◎ 電気、ガス、水の省エネ・省資源に協力しましょう!!

## 昭和60年度全国安全週間

昭和60年7月1日～7日

—— みんなで考え みんなで築こう

災害ゼロの明るい職場を! ——



資 料

昭和59年度卒業生就職状況

(昭和60年5月1日現在)

・産業別

産業別		人文学部	教育学部	経済学部	理学部	工学部	合計
農業							
林業							
漁業・水産養殖業							
鉱業							
建設業		1	2	4		2	9
製 造 業	食料品	3		6		1	10
	繊維		1	1		2	4
	印刷	9	3			4	16
	化学工業	2	1	9	16	14	42
	石油・石炭製品						
	鉄鋼			1		3	4
	非鉄金属	4		1			5
	金属製品			3			3
	一般機械器具	2		6	3	30	41
	電気機械器具			14	8	60	82
	輸送用機械器具	4		2		19	25
	精密機械器具		3	1	3	7	14
	その他	2	5	14	2	42	65
小計	26	13	58	32	182	311	
卸小売	商事・貿易	5		21		5	31
	百貨店・スーパー	15	4	26	3		48
	小計	20	4	47	3	5	79
金融保険	銀行	3		12	1		16
	信用金庫 信用組合	1		21			22
	保険業			17			17
	証券・商品取引	1		16			17
	小計	5		66	1		72

産業別		人文学部	教育学部	経 学部	理 学部	工学部	合計
不動産業							
運輸・倉庫業			1	12		5	18
電気・ガス・水道		1		2		2	5
マスコミ	新聞・出版	2					2
	ラジオ・テレビ	1					1
	小計	3					3
サービス	広告・観光業	9					9
	医療保健業						
	非営利的団体		2	1			3
	公共企業体等						
小計	9	2	1			12	
教 育	35	172	4	32	2	245	
公 務	国家公務員	3	1	12	3	2	21
	地方公務員	9	5	28	1	1	44
	小計	12	6	40	4	3	65
上記以外のもの	17	7	33	22	17	96	
合 計	129	207	267	94	218	915	

規模別就職先	大企業 (従業員数 300人以上)	43	6	154	27	172	402
	中企業 (従業員数 30~299人)	32	11	53	23	39	158
	小企業 (従業員数 29人以下)	7	7	8	7	1	30
	企業以外	47	183	52	37	6	590

・地域別

地方学部	北海道	東 北	関 東	中 部		近 畿	中 国	四 国	九 州	海 外	合 計
				富山県	その他						
人文学部	1		16	68	32	12					129
教育学部			1	174	32						207
経済学部		1	76	85	80	25					267
理学部			26	32	24	12					94
工学部			48	81	73	16					218
合 計	1	1	167	440	241	65					915
%	0.1	0.1	18.3	48.1	26.3	7.1					100

◎ 構内での自動車等の運転は、教育・研究に支障を  
来さないよう安全運転に努め定められた交通方法、  
歩行者の安全及び騒音防止に努めましょう!!



編 集 富山大学庶務部庶務課  
富山市五福3190  
印刷所 中央印刷株式会社  
富山市下奥井1-4-5  
電話 32-6572(代)